

国語

一

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

(尼ヶ崎彬『日本のレトリック——演技する言葉』による)

問一 傍線部(1)～(5)について、片仮名は漢字に直し、漢字は読みを平仮名で答えなさい。

問二 傍線部(ア)「大名が江戸城内で禁を破って抜刀し、殺人未遂の結果切腹を言い渡された」とあるが、この事件をもとに作られた江戸時代の作品の題名を解答欄に合うように答えなさい。

問三 空欄 A 〃 D に入ることばとしてもつとも適当なものをそれぞれ次の中から選び、番号で答えなさい。
1 しかし 2 しかも 3 だから 4 なぜなら 5 むしろ 6 たとえば

問四 空欄 X に入るもつとも適当なことばを平仮名二字で答えなさい。

問五 傍線部(イ)「業平の作の方に歌として何となくさこちない感じを受ける」とあるが、それはなぜか。その理由を述べている箇所を文中から三十字以内で抜き出して答えなさい(句読点も字数に含む)。

問六 空欄 Y に入ることばとしてもつとも適当なものを次の中から選び、番号で答えなさい。

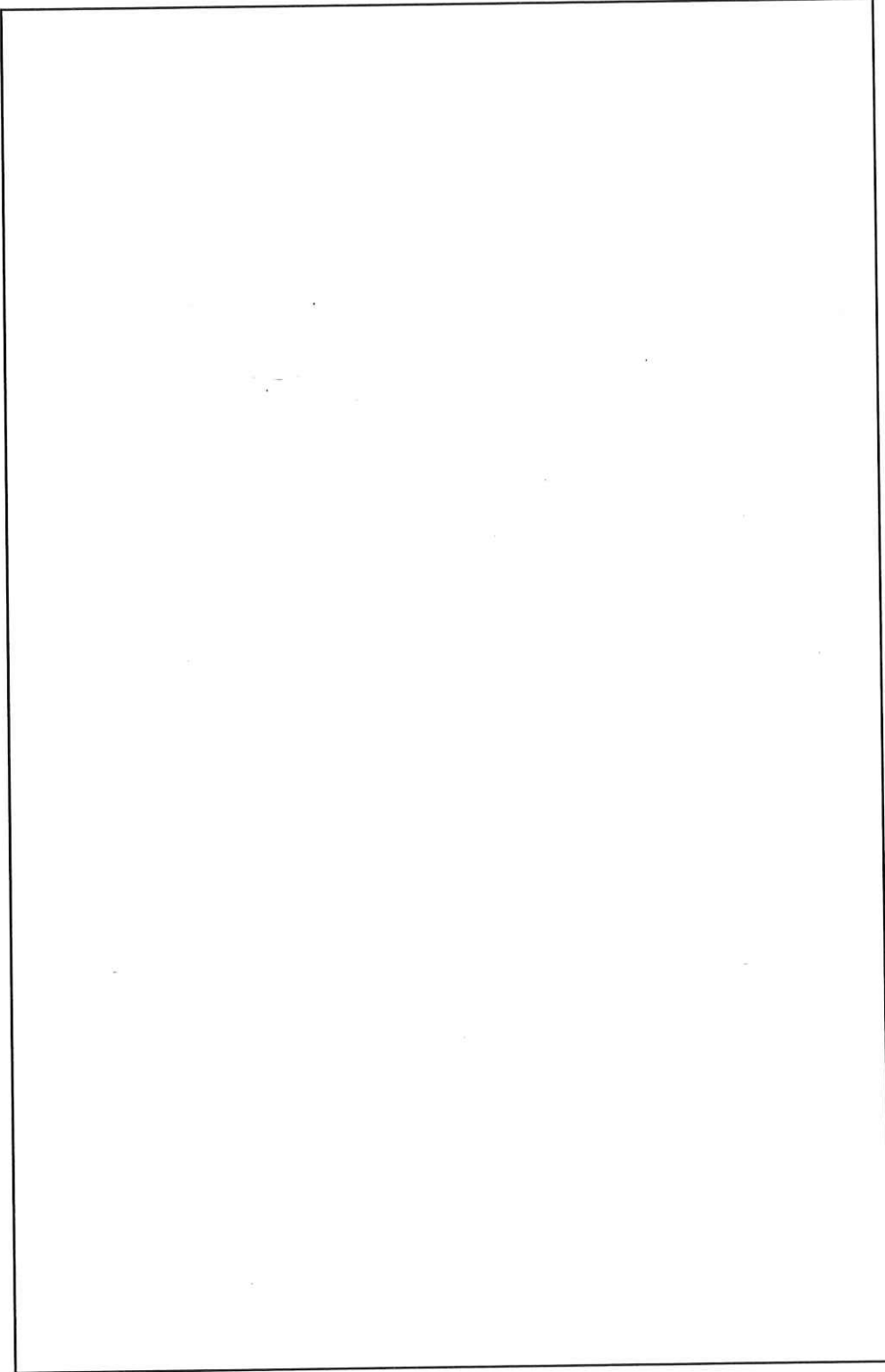
- 1 掛詞 2 見立て 3 本歌取り 4 やつし 5 もじり

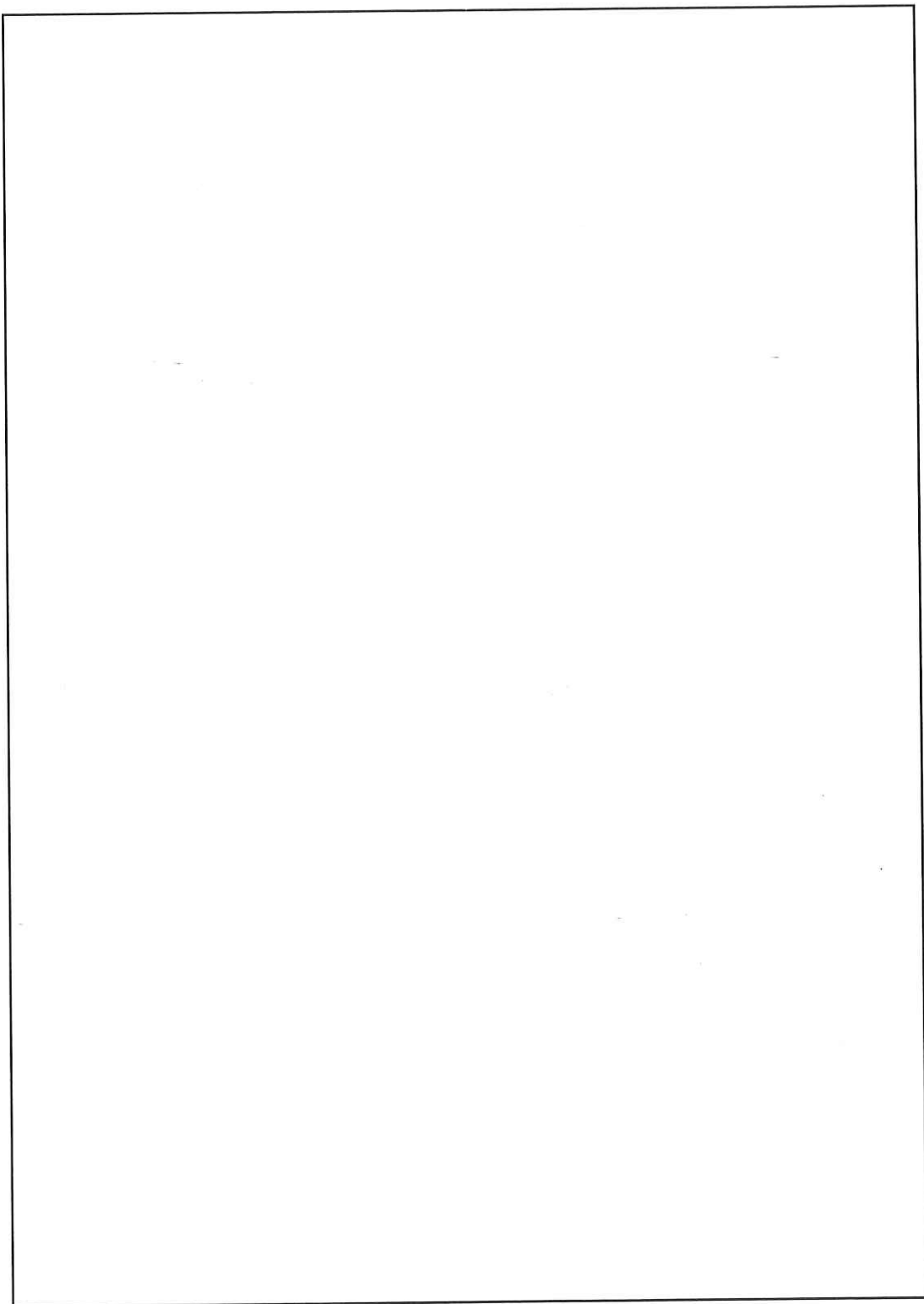
問七 本文の内容にもっとも合っているものを次の中から選び、番号で答えなさい。

- 1 歌、特に古典和歌は、現代語に訳されて意味内容がわかればそれで十分である。
- 2 私たちは「ただの詞」であっても、相手の気持ちを考え、言い回しに注意しなければならない。
- 3 私たちの日常生活において大事なものは「何と言ったか」であって「何を言ったか」ではない。
- 4 私たちが日常的に使用する言葉も、歌の言葉も、意味を伝える透明な媒体である。
- 5 歌の命は言葉の形にあり、その意味内容は我々の意識に喚び起こしうる可能性の一つである。

二

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。





(芥川龍之介『沼地』による)

(注1) 蓊鬱 草木が盛んに茂っているさま

(注2) 無花果 いちじく

(注3) 淤泥 どろ

(注4) 拮抗 互いにはり合うこと

(注5) 卒然 急にわかなさま・突然

(注6) 恰幅 身体の格好

(注7) 悚然 恐れてぞっとするさま

問一 傍線部(ア)「一枚発見した」とあるが、そのようにいえる理由として適当でないものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 展示室の片隅に、粗末な額縁に入れられて懸かっていたから。
- 2 濁った水と湿った土と生い茂る草木を描いているだけだから。
- 3 新聞の美術記者が出品に気づいていないほどのものだったから。
- 4 「沼地」という題名で、名もない画家が描いたものだったから。
- 5 見事な描写力で他の展示作品を圧倒していることに気づいたから。

問二 傍線部(イ)「繁」と同じ意味で使われているものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- | | | | | |
|------|------|------|------|------|
| 1 繁忙 | 2 繁栄 | 3 繁殖 | 4 繁雑 | 5 頻繁 |
|------|------|------|------|------|

問三 傍線部(ウ)「不快な印象を受けた」とあるが、「記者」の笑い以外で「私」にそのような印象を与える行動を文中から二十五字以内で抜き出して答えなさい(句読点も字数を含む)。

問四 傍線部(エ)「私の好奇心はいつか私の不快な感情より強くなっていた」とあるが、それは「私」のどのような行動に現れているか。三十字以内で簡潔に説明しなさい(句読点も字数を含む)。

問五 傍線部(オ)「カンショウ」を用いた表現を一つ選び、番号で答えなさい。

- | | | |
|--------------|---------------|---------------|
| 1 庭園をカンショウする | 2 退職をカンショウされる | 3 私生活にカンショウする |
| 4 カンショウにふける | 5 名曲をカンショウする | |

問六 空欄

A

C

 に入ることばとしてもっとも適当なものをそれぞれ次の中から選び、番号で答えなさい。

- 1 そうして 2 つまり 3 あるいは 4 ところで 5 しかし 6 したがって

問七 傍線部(カ)「焦躁と不安」とあるが、芸術家はどのようなことにそれを感じていたのか。具体的に表されている部分を文中から十字程度で抜き出して答えなさい。

問八 芥川龍之介の作品を次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 地獄変 2 ところ 3 人間失格 4 城の崎にて 5 友情

問九 Aさんたちのグループは、人物に注目して作品分析を行いました。左記の「Ⅰ」「Ⅱ」に入ることばを問題文中から抜き出して答えなさい。

私たちのグループは、この作品中の人物に注目して、作品を読み解いてみました。ここでは、数人の人物が登場し、作品の展開に関わっていました。

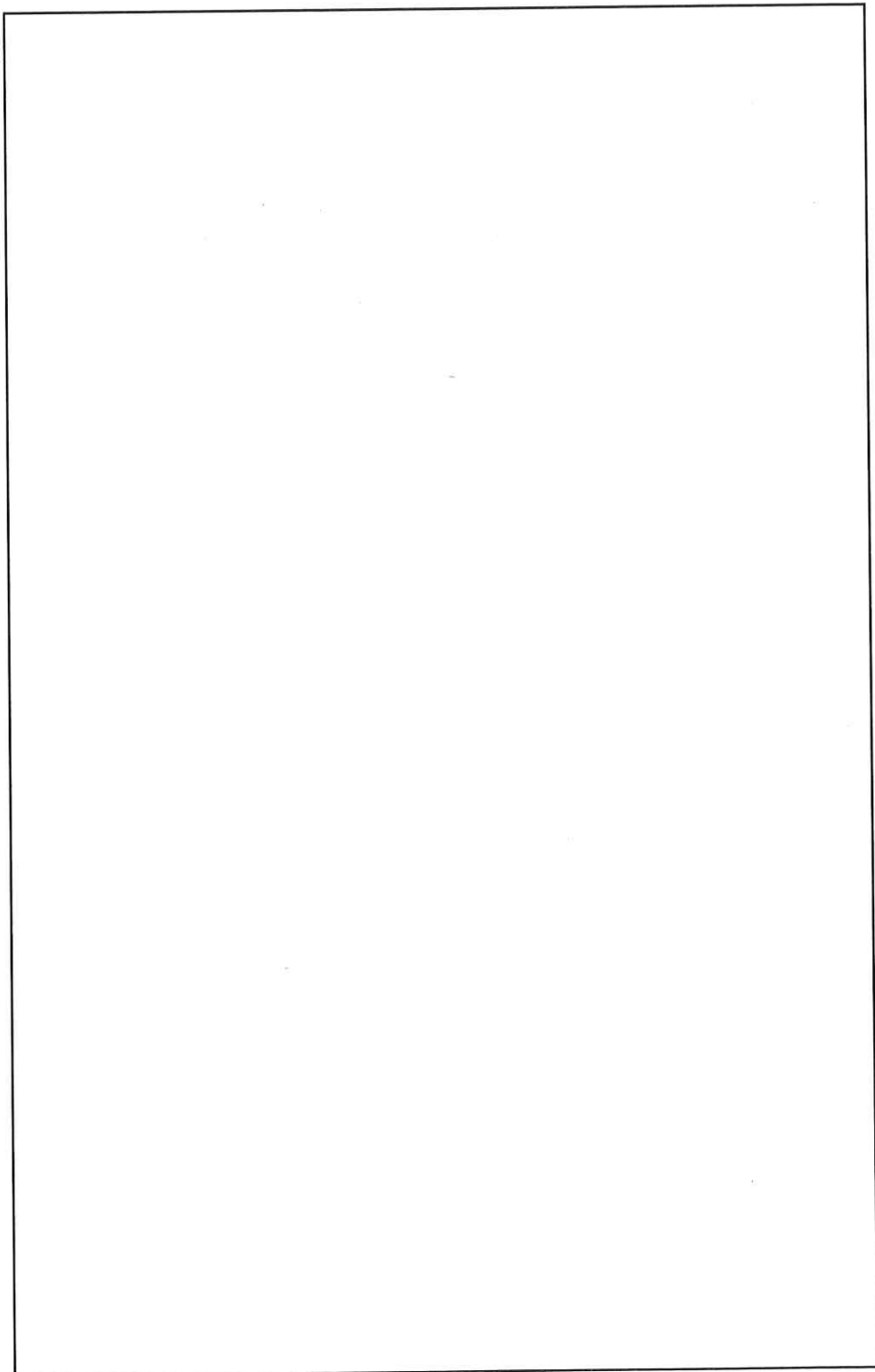
まず、作品中で「私」が「画家」のことを「芸術家」、そして、「Ⅰ」と表現を変えていったところに注目し、「私」が「画家」への共感を深めていったのではないかと思いました。

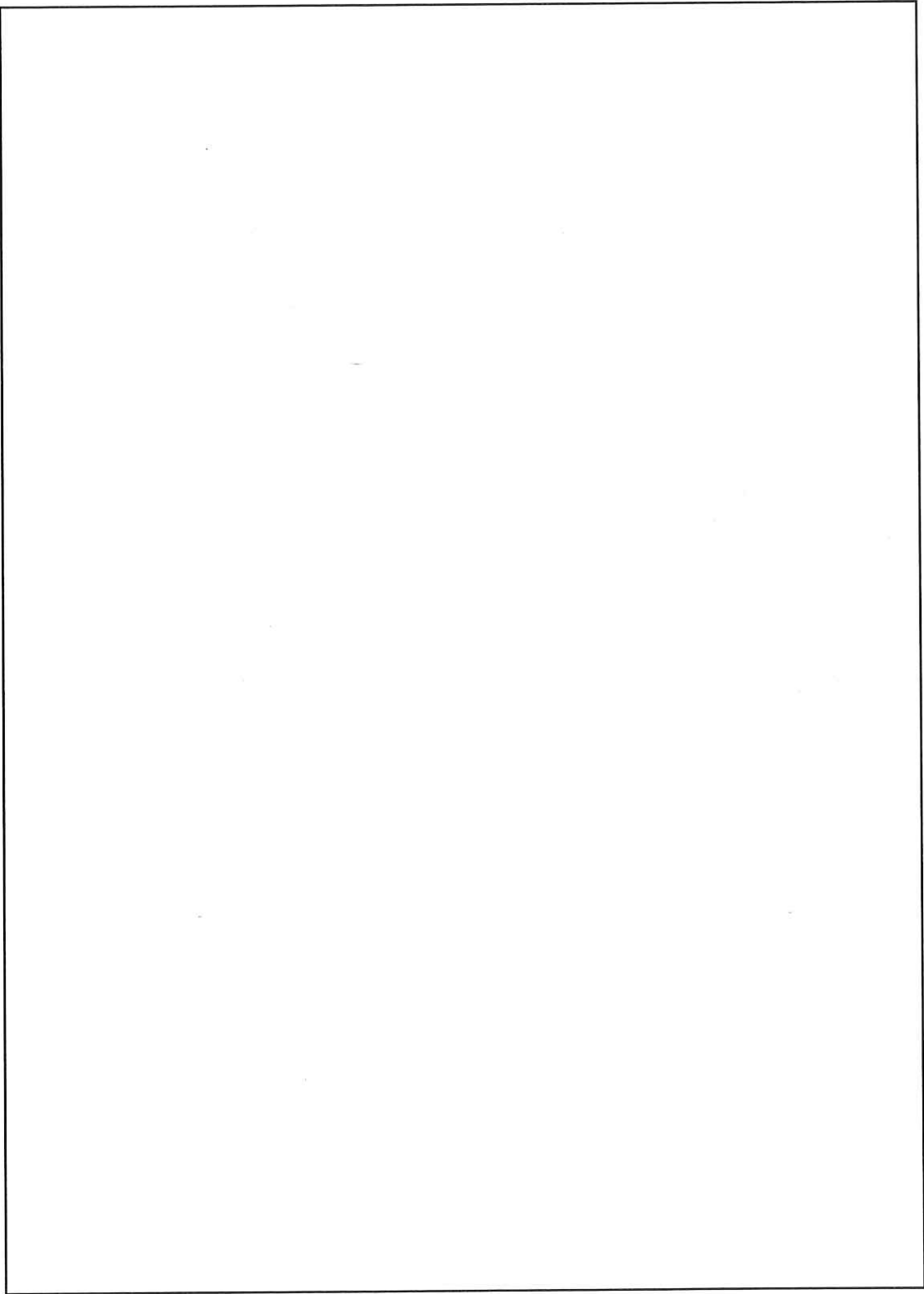
次に、人物の関係性に着目したのですが、「記者」や「見物」(見物人)を「私」や「画家」の反対の側にいる人々と見て、

「Ⅱ」と表しているところに、「私」の立ち位置を捉えることができると感じました。

三

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。





問一 傍線部(1)(2)の片仮名を漢字に直しなさい。

問二 空欄 A に入ることばとしてもっとも適当なものを次の中から選び、番号で答えなさい。

- 1 現実的 2 合理的 3 有機的 4 機能的 5 物理的

問三 空欄 B D に入ることばとしてもっとも適当なものをそれぞれ次の中から選び、番号で答えなさい。

- 1 たとえば 2 ところで 3 むしろ 4 なぜなら 5 それゆえ

問四 空欄 C に入ることばとしてもっとも適当なものを次の中から選び、番号で答えなさい。

- 1 具体的 2 即物的 3 観念的 4 自動的 5 平面的

問五 傍線部(ア)その文字を写し取った「平面」の拓本を「立体」的な石碑の文字と同一視するのも同じ理由からである」とあるが、「同じ理由」の内容を述べた箇所を文中から五十字以内で抜き出し、始めと終わりの六字を答えなさい(句読点も字数を含む)。

問六 文中の「Ⅰ」「Ⅱ」「Ⅲ」「Ⅳ」「Ⅴ」のいずれかの箇所¹に次の一文が入る。もっとも適当な箇所を選び、記号で答えなさい。

このように書字の点画は深さ²と深度を表現する。

問七 次に示すのは生徒たちが本文を読んだ後、書について話し合っている会話である。これを読んで、本文の内容に合わないものを選択肢Ⅰ～Ⅶの中から二つ選び、番号で答えなさい（順不同）。

- 1 生徒A——石碑に刻りつけられた文字には確かに凸凹が見られますよね。
- 2 生徒B——紙に書かれた字画が太いところは深く、細い線は浅く刻られるものらしいです。
- 3 生徒C——そうだとすると、筆で書かれた字画はもともと深さというものを象徴していると言えますね。
- 4 生徒D——なるほど、すると平面や立体ということばは深みの表現と捉えることもできますね。
- 5 生徒B——確かに、石に刻り付けられた文字を写し取った拓本自体は、平面で作られたものののに、石碑の文字の深さが浮かびあがってくるようです。
- 6 生徒C——川の浅瀬を流れるような流動的な字画は細くて浅い筋が集まっているから、嫌われることもあるのですね。
- 7 生徒A——線に深さや浅さがあるということで、書には彫刻的と言える性格があることがわかりました。

□

【解答例】

問一 (1) しえん (2) せんさく (3) 凡庸 (4) 努 (5) 素通

問二 忠臣蔵

問三 A―5 B―6 C―3 D―1

問四 ひけ

問五 言葉がじかに意味を私たちに伝えてしまうように思えるから（27字）

問六 2

問七 5

【出題意図】

問一 基本的な漢字の書き取りと読み。

問二 基礎的な文学史の知識。

問三 文章の論理構造の理解。

問四 語彙力の確認。

問五 文章の論理構造の理解と内容の把握。

問六 語彙力の確認。

問七 内容の把握。

□

【解答例】

問一 3

問二 3

問三 剃刀を当てたばかりの顚で、沼地の画をさし示した（23字）

問四 （例）当初は嫌々返事をしていたのが、自ら質問するようになった（27字）

問五 5

問六 A―3 B―5 C―1

問七 画が思うように描けない（ということ）（11字）

問八 1

問九 I 我々の一人 II 世間

【出題意図】

- 問一 内容の把握。
- 問二 語彙・漢字の理解。
- 問三 内容の把握。
- 問四 内容の把握。
- 問五 語彙・漢字の理解。
- 問六 文脈の理解。
- 問七 内容の把握。
- 問八 基礎的な文学史の知識。
- 問九 内容の把握と表現の理解。

三

【解答例】

- 問一 (1) 根幹 (2) 徳目
- 問二 5
- 問三 B―3 D―5
- 問四 4
- 問五 (始め) われわれは、 (終わり) 感じている。
- 問六 V
- 問七 4・6 (順不同)

【出題意図】

- 問一 基本的な漢字の書き取り。
- 問二 文脈把握力の確認。
- 問三 文の前後関係の把握。
- 問四 文脈把握力の把握。
- 問五 内容の把握。
- 問六 段落ごとの内容の把握。
- 問七 本文全体の内容の把握。